

@@

立命館大学スポーツ健康科学研究センターBeActive研究会  
「BeActiveニュース」第13号 2016年8月29日（月）

@@

執筆者：藤本 雅大（スポーツ健康科学部 助教）

高齢者における転倒は、深刻な外傷を引き起こす世界規模での社会問題です。私はバイオメカニクスを専門としており、高齢者は“なぜ”転倒するのか、“どのようにすれば”転倒を防ぐことができるのか、を明らかにする事を主な研究課題とし、バランス能力の低下に寄与する神経的・力学的要因の解明を目指した研究を進めております。

夏は学会のシーズンです。私からは所属学会の近況をご報告いたします。

【アメリカバイオメカニクス学会】

8月2日～5日にアメリカ、ノースカロライナ州ローリーで、アメリカバイオメカニクス学会の年次大会が開催されました。 <http://asb2016.asbweb.org/>  
本学からは伊坂忠夫教授、長野明紀教授、学生3名と私が参加、発表しました。

高齢者は特に左右方向にバランスを崩しやすく、バランス回復に複数回のステップを要求する傾向にある事が明らかとなっています。私の発表では、一歩目のステップの距離が短い時、あるいはそれ以前のステップ開始時に重心の安定性が低ければ、バランス回復に複数回ステップを要求する事を示しました。

・ Fujimoto M, Bair W-N, and Rogers MW. Lateral stability and first step characteristics during single and multiple step recovery responses to balance perturbations in older adults. The 40th Annual Meeting of the American Society of Biomechanics, Raleigh, NC, Aug 3-4, 2016.

【日本機械学会 福祉工学シンポジウム】

第32回ライフサポート学会大会、第16回日本生活支援工学会大会、日本機械学会 福祉工学シンポジウム2016の複合大会である、LIFE2016が9月4日～6日に東北大学にて開催されます。  
<http://www.jsme.or.jp/rmd/life2016/index.html>

私は、「バイオメカニクス分野における大規模データベースの利活用と今後」というオーガナイズドセッションにて、「歩行速度と加速度に基づく若年者、高齢者、転倒経験者の歩容の判別」の題目で発表いたします。  
従来より転倒リスクの評価指標として用いられている歩行速度に加えて、歩行中の加速度を用いる事で、バランス能力の異なる個人の歩容をより良く判別できる事を示しています。

・ 藤本雅大, 長野明紀, Chou Li-Shan. 歩行速度と加速度に基づく若年者、高齢者、転倒経験者の歩容の判別. LIFE 2016, 2016年9月6日.  
・ 「高齢者の転倒リスク評価、歩行加速度が重要指標」, 日刊工業新聞23面, 2016年4月14日.  
<https://www.nikkan.co.jp/articles/view/00381816>

【日本バイオメカニクス学会】

本学伊坂忠夫教授を組織委員長、長野明紀教授を実行委員長とし、  
9月12-14日 立命館大学びわこくさつキャンパスにて、第24回日本バイオメカニクス

2016. 8. 29 Vol. 13. txt

ス学会を開催いたします。 <http://www.ic.fc.ritsumei.ac.jp/JSB2016/TOP.html>  
特別講演には、山崎直子先生（宇宙飛行士／立命館大学客員教授）、カルガリー大学のHerzog教授をお迎えいたします。是非お越し下さい。

@@  
スポーツ健康科学研究センター  
BeActive研究会  
公式ホームページ

<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/spoken/index.html>

研究会イベント、シンポジウム情報、及びメルマガバックナンバーなど掲載！